

TF輸送分科会

輸送システムの今後と輸送の将来に向けたR&D

2012年10月15日

基幹ロケットの今後の発展

国の基幹技術維持・市場競争力・有人化・・・

固体ロケットシステムの今後の発展

何を今後に残し発展させるか・経済合理性の世界の固体システム

輸送の将来に向けたR&D

新しい輸送と宇宙利用の世界を切り開くシステムの具体化

日本の基幹ロケットの到達点と課題

技術的には世界レベル

打ち上げ実績の蓄積(H2A/H2B)

市場競争力の課題(高コスト・対衛星サービス世界標準との乖離)

開発機会の減少によるシステム構築・新規開発人材の消失の危機

インフラの老朽化と維持経費の増大

民営化後の運営／国の支援の方法

民間投資による開発のためのインセンティブの不在



H2ロケットの今後

次期基幹ロケットの考え方の様々な可能性と議論の切り口

市場競争力の獲得(マーケットの明確化と獲得目標の設定)

国の基幹技術としての運営体制・開発 / 製造体制・人材の維持

民営化・民間による自律的運営体制の構築 / 国の支援

無人・有人月惑星探査の輸送の中での位置づけ

有人化ロケットへの発展

将来型輸送システムへの発展(フライバックブースタ化?)

.....

固体ロケットシステムの今後

Mロケットの何を今後に継承していくのか？

＜Mロケットの作った世界＞

世界レベルの固体推進技術とシステム・サブシステム技術の実用化

科学衛星計画と一体のロケット開発計画と一貫した研究・開発・運用の体制

研究・開発・運用を通じた人材の継続的育成（メーカー技術者も含む）

インハウスの基礎研究から観測ロケットなどによる飛翔実証を経て実機への適用を図る体制，研究と開発現場の一体的運営もしくは混在

低コスト化よりも新規技術開発重視とその実機適用を優先するプロモーション

製造メーカーとの協力関係と技術開発のための相互の刺激，研究的責任分担

